



10/7  
(金)

災害ボランティア報告会  
@アクロス福岡

私達、九州協力隊が9月の始めに、35名のメンバーで宮城県気仙沼市大島にて行った、災害復興支援活動と、現地の様子について報告させていただきました。まず初めに、ボランティアリーダー、福岡県の青年海外協力協会OBE会長の小田哲也氏に、現地の様子や、九州協力隊の活動について、一般来場者の皆様へ発表いただきました。

続いては、ボランティアメンバーの将来の担い手、各大学、専門学生の皆さんを主体に、参加した理由や、現地で感じたこと、今後の復興支援などの個々の思いを語っていただきました。

企画から、広報、参加者募集、災害対策本部との調整業務、ボランティア派遣から報告会の全ての業務を終え、一番嬉しかったことは、福岡の若者が、自己の精神で参加し、毎日の大切さに気づき、将来のために勉強や、仕事を頑張りたいという言葉を書くことができ、私達ができる復興支援と、地域の学生と社会人との地域社会還元ができ、良い活動ができたと感じております。(福永)

心  
ひとつに

大島災害対策本部 絆 九州協力隊



11/5 (土)  
~6 (日)

地球市民どんたく2011  
@アクロス福岡

国際協力フェスタ、地球市民どんたく2011が開催されました。この地球市民どんたくとは、福岡の国際協力の関係団体が集まり、世界での活動など、そして、今回の東日本大震災に関しての世界からの援助の内容等を紹介するイベントでありました。

集まったNGOなどの23団体は、一月に2回ほどの会議に参加し、様々な協議を重ね、役割を担い本番を迎えました。

本番当日を迎える前に、私たち広報班はなんと、RKBのめんたいワイド、J:COM LOVE FMなどに出演を行い、慣れないながら一生懸命に広報を行いました。

本番当日には、社会企業家の(有)バンベン代表の坂本さんと一緒にブースを構え、内モンゴルで採れる岩塩の販売を行いました。その売り上額の1割は、内モンゴルにある砂漠化を止めるために、植林活動を続けております。また、その他参加団体の中には、原発の問題や、ゴミ問題、貧困や、教育問題など世界の問題を訴え、私達は地球市民として何ができるかを考えました。(福永)

主催 財団法人福岡国際交流協会  
地球市民どんたく実行委員会



11/27  
(日)

「森と私たち」  
@井原山

11月27日に糸島市にある、井原山で「森と私たち2011」を実施しました。今年度はF-coopさんからの助成を受けて2回実施する予定になっておりますが、今回はその1回目で森林散策を行ないました。当日はスタッフも含め約30名参加していただき、福岡在住の留学生と市民が里山で自然を感じながら国際交流を楽しんでもらうことが出来ました。糸島市在住で今回はじめて参加していただいた上本美則さんは、「今日のような一瞬でも我が国の人達はもちろんのこと、他の国の人達と心の交流ができたことを幸せに感じます。」という感想を送って下さいました。このような繋がりを作るきっかけに「森と私たち」がなれたことをとても嬉しく思っており、この繋がりが大きな輪となるように今後とも活動していきたいと思っております。年明けに草木染体験を実施する予定になっておりますので、ご興味のあるかたは当協会まで是非ご連絡下さい。(田中)



11/28 (木)  
~12/8 (木)

JICA青年研修  
大洋州混成・初等理科教育

去る11月22日から12月9日まで大洋州各国（パプアニューギニア、ソロモン諸島、キリバス、バヌアツ、パラオ、クック諸島、マーシャル諸島、ミクロネシア諸島）から総勢21名の教育関係者が来日しました。

福浜小学校や庄内中学校、福岡雙葉高等学校、九州工業大学の各学校では授業視察を行い、給食時には生徒達と一緒に給食を食べ、昼休みには生徒達と楽しそうに交流していました。また訪問の最後には先生方との意見交換を行い、生徒達の評価方法や学校運営等、幅広く様々な質問をしていました。福岡県教育委員会や福岡県教育センターを訪問させて頂いた際には、福岡県内で実施されている理科教育への取り組みに関する講義を受け、科学への関心を高めさせる科学実験の習得を行いました。その他にも児童文化科学館では身近な材料を用いた科学実験や、子ども向け科学教室の見学を行う等、盛りだくさんの内容でした。最終日には、この研修を通して得た経験や知識を活かして、自国で何ができるかというアクションプランを全員が発表し、一人一人が素晴らしい計画を立てていました。今回研修を通して多くの方々にお世話になり、本当に有難うございました。この場をお借りし、本研修に携わって頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。(武井)

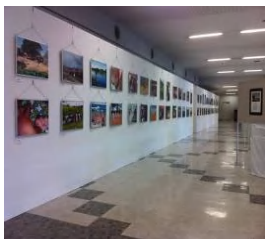
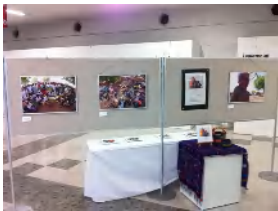


12/3 (土)  
~1/10 (月)

「世界をつなぐ」写真展  
@ 福岡空港



昨年12月3日~1月10日まで、福岡空港国内線第3ターミナル1階の展示スペースで「世界をつなぐ写真展」を開催してまいりました。一昨年から県内各地で行ってきておりましたが、今回はこれまでの作品約70点が一堂に会する貴重な機会となりました。到着ロビーの近くという点もあり、なかなか足を停めてゆっくりと観ていける方は少なかつたですが、それでもアンケートを記入して下さる方もいらつしやつてとても心うたれました。「大変興味深く見ました」「現地の空気が伝わる写真が良かったです」等の嬉しいお言葉をいただけました。これからも、地元の身近な人が開発途上国で触れ合ってきたものを通して、市民の皆さまに世界を身近に感じていただける機会を提供できる場にしていきたいと思います。(田中)



☆協力隊ナビ開催中☆

各県OB会が行う「協力隊ナビ」が活発に九州で行われています。ぜひご参加ください。

- 福岡: 毎月第3水曜日19:00~ @JOCA博多事務所
- 佐賀: @アイスクエア(佐賀市民活動センター)
- 熊本: @未定 日時は協力隊ナビで検索

※詳細日程についてはネットで「協力隊ナビ」を検索  
●長崎: 毎月第3金曜日開催 @長崎大学文教キャンパス内

- 大分: 毎月第2水曜日17:00~@OASISひろば
- 宮崎: 奇数月: 第4土曜日、偶数月: 第4水曜日 15:00~@芦屋Cafe LaBo(イオンモール)
- 鹿児島: @イタリアンレストラン&カフェ コムギコ



大分

福岡

■H24年 1月~3月までの予定

- 1月上旬 JICA展示「現地の素材を生かして」スタート
- 1/18 協力隊ナビ(博多事務所)
- 1/22 福岡県ボランティア家族連絡会
- 1/27~2/8 JICA青年研修(アフリカ混成)
- 1/29 熊本県ボランティア家族連絡会

- 2/5 日田クバーラ大会
- 2/7~13 マダガスカル現地調査
- 2/11 鹿児島県ボランティア家族連絡会
- 2/15 協力隊ナビ(博多事務所)
- 2/18 JICAエッセイコンテスト授賞式
- 2月中旬or3月中旬 「世界をつなぐ写真展」@宗像サンリブ
- 3月24日 森と私たち @ 井原山 留学生と散策(参加募集中)

シニア海外ボランティア



ウエック ツギオ  
上園 次生さん (鹿児島県出身)  
H21年度派遣 派遣国: アルゼンチン  
職種: 灌漑装置による水利用

前職(県庁)を退職して直後に参加したシニアボランティアでしたが、当初初めて経験することはかなり不安と喜びが錯綜する中で活動となりました。配属先は、アルゼンチンのサンファンにあるINIA(国立農牧畜試験場)で、ブエノスアイレスから西北西に約1,200キロメートルの位置にあり、アンデス山脈を挟んで隣はチリ共和国です。サンファンの気候は、高温乾燥地帯に区分されているとおり、夏は50度近くまで気温が上昇する反面、冬は氷点下10度位まで下がります。そして、年間降水量は1000ミリメートル以下でほとんど雨は降りません。したがって、生活用水や農業用水などは、アンデス山脈の雪解け水に依存している状況です。しかしながら、近年の地球温暖化等の影響でアンデス山脈の降雪量が減少傾向にあることや人口増等によって、水の需給が逼迫するようになっており、水の安定的な確保が大きな問題となっています。そこで、とりわけ農業用水については、INIAにおいて点滴かんがい等の節水かんがいシステムの開発・普及が焦眉の急になっており、今回の要請にはこうした背景がありました。ところが、いざ現地に着任してみると、点滴かんがいシス



共同菜園用の堆肥施設を住民の皆さんと一緒に作業

テムは既に完成し、今や普及の段階に移行していました。INIAの担当技師からも当面支援の必要はないという事でしたので、仕方なく要請内容とは関係のない「貧困対策」の一環である「プロウエルタ」に参加することになりました。当初は、思わぬ展開に戸惑いましたが、チームが快く迎えてくれたお陰で何とかメンバーの一員として2年間の活動を無事終える事が出来た次第です。「プロウエルタ」とは、菜園づくりを支援するプログラムで、貧しい生活を余儀なくされている人々が自家消費用の野菜等を新鮮、安全かつバランスよく摂取できるように各家庭に菜園づくりを普及させていくものです。経験のない業務での支援となり、どう評価されたか気になるところでしたが、離任の際にINIAを継続要請したいとの意向を聞き、安堵したと同時に、サンファンにおける「プロウエルタ」の普及にはINIAのさらなる支援に大きな期待が寄せられているのを感じた次第です。自分の専門技術を活かせなかつたことには忸怩たる思いがありますが、人と人の付き合いをおして生まれる友情と信頼は、経験にも勝る貢献を可能にしますし、さらに交流の面でもその家族、友人まで及び、大変貴重な2年間のボランティア生活を体験することが出来ました。

青年海外協力隊



オオクボ アヤ  
大久保 綾さん (福岡県出身)  
H20年度派遣 派遣国: グアテマラ  
職種: 家政

私は08年からグアテマラ共和国で家政隊員として活動し、今はその魅力をもっと多くの人に知ってもらいたく、グアテマラの手織物を使って布小物を手作り制作販売しています。それは振り返ると、学生時代にその民族衣装に魅かれたこの目で見ようと実際に足を運んだことが全ての始まりでした。すっかりその魅力に取り憑かれ、そしてその一方でグアテマラの宝と対比した貧困を目にします。けれども、彼らの穏やかな笑顔ややさしさ、向こうの青空と太陽が忘れられず、縁あって、協力量として2年間グアテマラの人たちと共に活動することができました。とは言え、現地に着き赴任した先は私の思っていた希望通りの仕事ではありませんでした。まづそもそも伝統織物を織るマヤ系住民はそこにはおらず、白人との混血のラテン系の人種が多くマヤの文化も伝統もこれっぽっちもない場所でした。私を知るグアテマラじゃないということにまず落胆しそこでの活動にも力が入らないという脱力感から始まりました。

帰国の報告



●●現在の久保さんの活動●●  
「ho itoo」のブログをご覧ください  
<http://ho-itoo.jugem.jp>

けれど、自分の特技を活かして交流しようと思つたと編物を始めると、自然とこの女性たちは関心をもち集まってくれるようになりました。それで少しずつ、日本から来た女性が何やら教えてくれるらしいということが口コミで広がり、生徒も増え、信頼関係を築けるようになりました。そこで自信をつけ、2年目からは長年の願い叶って草木染め手織り布の民芸品に力を入れる地域のマヤ先住民女性グループ対象に縫製指導することができました。マヤ系の人たちは本当に根気強く作業を続け、普段織物という緻密な作業をしているからか、目を数えることには何の抵抗もないようでした。手仕事で生計を立てるという誇りがあるため、やる気や意欲がありました。それにまた私も励まされながら、彼女たちは講習会で習得した新しい商品を店頭で販売していくようになりました。2年間いて分かったのが、私はお互いに物作りをする喜びを感じ合いたいということ。手仕事のすばらしさ、それを通して人に気に入ってもらえる、そして生活していける、私が今行なっていることの原点はここにあると思います。だから、彼らにもその手仕事をずっと続けて欲しい、そしてずっと繋がっていけるように私も続けて行きたいと思っています。

法人会員様にレポート!  
株式会社「ワイエルインベスト」

当協会が日ごろからお世話になって  
いる法人の方々の活動に迫ってみま  
した。  
初回は、インドネシアの植林活動を  
行うワイエルインベストさんです。  
代表取締役の山本亮氏と取締役開発  
部長の阿久根直人氏へインタビュー  
しました。お二人のこれまでの活動  
から、事業への熱い思いを感じる時  
間となりました。



取締役開発部長  
阿久根 直利氏

代表取締役  
山本 亮氏

●山本氏が語る

「ワイエルインベストまでの軌跡」

大分県佐伯市出身の山本氏は、中学卒業後、林業の世界へ。35歳で独立し、「山本木材産業株式会社」を創設。フィリピンやロシア、アラスカなど約30ヶ国の国々を回り、世界の木材を日本へ輸入。それから数十年、多くの地域で砂漠化が進み、生物が住めない地域が増えてきている現実  
に直面。フランス人の小説家シャトーブリアンの「森は文明の前にあった。砂漠はその後によつてく  
る。」の言葉に感銘。その後、木材輸入業の仕事をやめ、これまでの経験をもとに、木で恩返しができるマングローブの植林を始める。平成16年に旧社名「山本木材産業株式会社」からワイエルインベストに改め再活動。飛行機でシンガポールからインドネシア上空を通過する際に見た広大な干潟をヒントにマングローブ植林活動をスタートする。植えることより、維持することに時間と労力がかかるのがこの活動。現地の支援になる持続可能な植林活動をしていきたいと語る山本氏である。

●事業概要

主な活動は、インドネシアの植林事業及び排出権（注1）開発事業。インドネシアに事務所を設け、現在、南スマトラ州をはじめ、4州（左下図参照）にわたる海岸部の干潟に植林活動を実施。各政府と締結し、合計で約10万ヘクタールの土地を貸借し、マングローブ植林における排出権開発を展開。平成23年6月までに、約一千七百万のマングローブを植林。平成19年には、インドネシア林業省より推薦され、COP13にて事業説明のブースを設置、平成23年にはドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組み条約に参加、発表を行うなど世界からも注目を浴びる。  
また、国内では、福岡県大川市および大川市の木工関連業者6社が行う植林事業へ支援するなど、各企業への植林活動の現地作業の請け負いや植林活動を体験する研修ツアーも実施している。その他、山本氏自ら、教育機関等へ環境教育の講演「マングローブに出会ったやまじい」を行うなど多岐に渡る活動を展開している。

●阿久根氏が語る

「現地インドネシアでの活動」

（注1）排出権事業。各国家や各起業ごとに温室効果ガスの排出枠を定め、排出枠を超えて排出してしまった国や起業との間でトレードする制度。

ワイエルインベストのインドネシア在外事務所PT. Yamamoto Asri に駐在している阿久根氏は、一年の半分を現場の植林地で活動する。主役は、現地の人々。現地の人々は、マングローブの植えつけにより歩合制でお金を稼ぐ。マングローブの植林により、雇用が増えるばかりでなく、豊富な天然エビの宝庫であった地域を蘇らせてくれるという効果もあり、現在では、自分の村でも植林活動をしてほしいという希望が多くの村々から寄せられている。電波の通じない村々での活動はとても過酷であるが、マングローブの植林で多くの干潟が変わっていくことが喜びだと語る阿久根氏。インドネシアを熟知している阿久根氏は現在、数千人の現地の人々とともに活動を展開している。

国連気候変動枠組み条約に参加 @ ドイツ ボン



小学校にて環境教育



「地球にマングローブを！」プロジェクト実施中

メンバー募集！詳しくは、ワイエルインベスト検索

5000円であなたの1年分のCO2をオフセット！



●JOCA九州との出会い  
法人会員として平成20年に加入いただく。その後、ワイエルインベストさんが行う植林活動にスタディーツアーとして当協会が参加。平成22年には、参加者11名とともに二千本のマングローブの植林を行う。  
●JOCA九州へのメッセージ  
今後JOCA九州と仕事がしたい。リスクを冒しても何かいい事例を一つ作り、社会に納得していただけるものを作りあげていきたいです。

皆様の温かいお心、お力添えに 深く感謝申し上げます

齊藤 ちづる (元JOCAKyushuスタッフ・故 齊藤雅之の妻)

皆様のもとで活動をさせていただいておりました 齊藤 雅之 が、還らぬ人となってから早くも一年余りが経ちました。昨年10月1日、福岡市中央区天神にて、「故 齊藤 雅之 を偲ぶ会」を開催していただきました。同会実行委員会の皆様を中心に、JOCAKyushuの皆様、JICAボランティアOVの皆様、また、故人にゆかりのあるたくさんの皆様のおかげをもちまして、このような会を開いていただき、故人の笑顔が終始浮かぶような穏やかなひとときを皆様とともに過ごさせていただきました。齊藤雅之の本人もその場にいるかのようでした。お忙しい中お集まりいただいた皆様、温かいメッセージやお心をお寄せくださいました皆様、本当にありがとうございました。皆様のごこと、当日の様子、そして、父親の在りし日の姿がたくさん綴られた偲ぶ会記念誌…全てを息子・優樹(2歳)にしっかりと伝えてまいります。また、同日、(特活)九州海外協力協会より、優樹のための遺児育英基金を贈呈いただきました。たくさんの皆様から優樹へ温かいご支援をいただきましたこと、この誌面をお借り致しまして心から感謝申し上げます。皆様のお心とお力を支えに、優樹はすくすくと成長しております。優樹には、今、皆様というたくさんの父や母ができました。これからも温かく見守っていただきますよう、また、折にふれて厳しくご指導くださいますよう、心からお願い申し上げます。本当にありがとうございました。末筆ではございますが、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(亡くなる1か月前、本人の故郷・行橋市長井の浜にて)



料金後納  
郵便

ゆるメール

特定非営利活動法人九州海外協力協会

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館

2F AB号室

TEL:092-415-6536

E-mail:ngoqshuint@joca-kyushu.or.jp

## NPO JOCA Kyushu 会員募集

元青年海外協力隊員が組織運営している、(特活)九州海外協力協会にご協力よろしくお願いします。今年認定NPO法人を目指し、組織の向上を目指します。今年一年も新たな取り組みなどを模索し、地域の方々に役に立てるように頑張って参ります。どうぞよろしくをお願いします。

個人	正会員	3000円	賛助会員	2000円
団体	正会員	10000円	賛助会員	10000円
法人	正会員	30000円	賛助会員	10000円

## NPO JOCA Kyushuより

昨年は、様々な事業やイベントを行って参りました。今年一年も様々な取り組みを行っていきます。そこで皆様にも留学生との森歩きや、子どもへの国際理解教育などの案内が欲しい、参加してみたい、させたいなどのご希望がありましたら、ご案内のメールをお送ります。案内メールご希望の方は下記メールにてご連絡先を教えてください。お待ちしております。

## 発行 特定非営利活動法人九州海外協力協会

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館 2F AB号室

TEL:092-415-6536

FAX:092-415-6518

HP:http://www.joca-kyushu.or.jp/

E-mail:ngoqshuint@joca-kyushu.or.jp

